校友時報

昭和37年6月9日
編集人兼発行所
秋田県立能代高等学校新聞部
印刷所　大勝堂印刷所

紙面紹介

▼一面　能高祭、論説、予算生徒会費、時評
▼二面　予算解説、ゲタバキ禁止の件、記者放言、進学
▼三面　新入生放談会、スポーツ記事
▼四面　アンケート、映画紹介

能高祭開催（九月）が決定

第三回文化祭が本年度行われることに決定した。昨年度国体が行われ、予算と時間が足りなかったことと、生徒や生徒会執行部の意欲が欠けていたなどの理由から中止された。文化局にとってはそのクラブ活動のあらましを紹介する唯一のチャンスを失ったわけである。それで本年度はぜひという全校生徒の熱意によって行われることになったのである。文化祭を行うにあたり今から着々と計画を練っている企画部にその方針、内容といったものを聞いてみた「期日は九月の中旬又は下旬で、二日間にわたって行う。全体に画期的な物は行わないが、高校生らしい明るさと新鮮さをモットーとしてやりたい。その意図で討論会も開く。現代の高校生のあり方などについて活発に意見を述べていただきたい。また予算は四万円となっているが、全校生徒から入場券を求めていただくほかいろいろな収入があるから約十万円程になるだろう。入場券はこれまでは生徒会の承認を得ずに発売していたが本年度は形式だけでも承認を得てから発売する。それから本年度は前夜祭も盛大に行う。ボンファイヤーを囲みながら踊ったりするスマートなものにする。また文化祭の計画を遂行するため例年どおりクラスから実行委員を選出しこれにあたる。ルームデコの方もその委員を中心に各ブロック自由にやってもらう。そしてみんなの待望の食堂も生徒の協力をもって開くつもりである。とにかく本年度の文化祭の方針としては、生徒の積極的な協力を得て実行委員会がさらにそれを発展させることに重点をおく」といっている。

生徒総会　本年度予算案を可決

本年度生徒会予算案が、四月三十日（月）の放課後と、五月一日（火）の放課後の二日間に渡って開かれた。生徒総会で執行部案通り可決された。

その結果、今年度の予算で減少したのは、バスケット部と、弁論部の二つの部だけ、あとは皆増加している。増加したのは、「生徒会費十円値上げ」により生徒会費が総額で、九万五千円増加したためである。体育局では、野球部の四万強、文化局ではブラバンの二万円強が増額のトップ。道具をそろえることや修理費などがその増額の主な理由である。更にバレー部、新聞部、剣道部の三部はそれぞれ一万四千円強から一万円とこれまた大きく増えている。バレー部がネットを新調。新聞部は昨年四回発行したのを今年は五回発行するのでその分一万五千円が増加した。また剣道部は小手の修理代が大きいためである。なお減少された部は弁論部ただ一つである。

硬球部	165,050	(+40,650)	スキー部	5,500	(0)
軟球部	39,690	(+11,790)	弁論部	1,350	(− 200)
庭球部	35,840	(+ 7,200)	文芸部	25,000	(+ 5.600)
バレー部	57,190	(+14,290)	科学部	23,020	(+ 6,640)
卓球部	21,400	(+ 8,900)	音楽部	3,970	(+ 2,470)
バスケット部	29.005	(+ 4,555)	書道部	9,200	(+ 1.800)
陸上競技部	20,050	(+ 1,650)	絵画部	10,350	(+ 800)
柔道部	22,900	(+ 4,725)	演劇部	17,980	(+ 5.180)
剣道部	48,000	(+11,000)	ブラバン部	38,160	(+23,060)
体操部	28,110	(+ 2,110)	新聞部	39,500	(+13,900)

〃生徒会費十円値上げ〃承認される

四月三十日、五月一日の二日間に渡って開かれた生徒総会において昭和三十七年度予算案承認と共に「生徒会費十円値上げ」が可決された。四月二十日の生徒委員会に執行部から提案されたもので、生徒委員会では満場一致で可決されていたものである。この「生徒会費十円値上げ」の提案理由として

一、文化祭開催が決定し、その経費として四万円を計上した。
一、物価値上がりによって運動、文化各クラブの諸経費が大幅にふえた。
一、交通、宿泊費の値上り。
一、各クラブによる要求額をできるだけ満たした、などである。

生徒総会では、「十円値上げ」の件についてある生徒から「三十七年度四月分から授業料が値上りしたが、もしもこの予算要求が生徒会費十円値上げを見越しての予算案であるならば四月分の八千円相応の赤字がすでに出るのではないか」との質疑があったが、福田生徒会長は「この予算案は五月以降の生徒会費十円値上げを見越して作成されたものである」と答弁。

又、ほかに昨年度の会計状況を知りたいとあったがこれについては会計の方から決算を報告し、了解を得た。

解説　「生徒会費十円値上げ」で一ケ月について約八千円、年間約九万六千円の増加をもたらすので今年度各部の予算は二つの部を除いて大幅に増額となった。この案を審議中「いくら十円といっても12ケ月では百二十円になる」など反対の声も聞かれたが、賛成側には「わが校のPTA会費に生徒会費をつり合う様にしたのだろう」という考え方や「なにしろ値上りブームだからな」と、しかたがないような意見を持っていた人も多かった。つきつめるならこの十円値上げの件も、社会の値上りブームに端を発したものといえよう。

論説　核実験と高校生

昭和二十年八月、日本は広島、長崎に原爆の投下を受け、世界唯一の被爆国となった。

戦後世界は原爆の強大な爆発力、それに伴う影響の大きさを認識するとともに、米国の原爆使用を強く非難した。米軍司令部も自国が行なった原爆使用を深く反省「太平洋戦争における最大の失敗は日本に原爆を投下したことだ」と発表するに到った。

それから十七年。幾多の核実験が米英仏ソによって行なわれ、現在も米国が日本を初めとする世界各国の反対を押し切り核実験の再開を強行している。米国の再開理由は〈ソ連の核実験への対抗処置〉であるが昨年行なわれたソ連の核実験再開理由も〈米国の核実験への対抗処置〉であった。またフランスがサハラ砂漠で第一回核実験を行なったとき、ドゴール大統領官邸当局は「フランスは核兵器の軍縮を達成するために、核保有国間の協定締結を一層促進することができる」と核実験をした意義を述べている。このように各国ともそれ相応な実験理由を発表している。

しかし、私たちはこのような理由で米英仏ソが核実験を繰り返し、第五、第六の核保有国が誕生することに鋭い批判を加え、反対していかなければならない。

では能高生はこのことをどう考えているだろうか。

本校新聞部が昨年九月に全校生徒を対象に行なった〃米ソ両国の核実験再開をどう思うか〃とのアンケートに対して、反対七六%、やむをえぬ二二%という結果が出た。五人中ひとりは米ソの核実験を認めているわけだが、私たちの住んでいる地球が人間の手によって死の灰と放射能で汚染されている事実を考えるとき〃やむをえない〃などという甘い考えは即座にうち捨てなければならないのではないか。

一昨年行なわれた安保反対運動に多数の高校生が参加したとき、全国高校長会議で「高校生の政治活動は好ましくない」との結論が出された。この結論から「高校生は核実験反対をしてはいけない」とはなるまい。核実験に反対の立場をとることが即ち政治活動とはならないだろう。世界唯一の被爆国日本に生活している私たち、そして武力の行使を放棄した平和憲法の下にある私たちが原水爆に対して抱く恐怖感が核実験を許さないのだ。核実験に関心を持つ人も持たない人も、ここでもう一度冷静に核実験の恐ろしさを認識しよう。

いまも、核実験は行なわれている。

写真は、予算審議をする生徒総会風景

時評　鉄道事故について

副顧問　大沼時彦

最近のショッキングな出来事は、三河島の衝突事故であった。それは、いくつかの鉄道事故が続いた後のことだけにそれぞれ専門的な立場から、いろいろ批判や反省がなされてあますところはないが、私の感じた事をのべたい。

第一に不注意が惨事をひきおこすに至ったと云う事である。これは最初から指摘された事であって、最も重大な点であることは論をまたない。

次に思う事は、ダイヤが余りにも余裕なく組まれている事が事故を大きくし、更に当事者に精神的なゆとりを失わせ、第二の事故が起るまで六分の時間があったにもかかわらずこの間、適切な措置を忘れさせ悲惨な結果を招いたことである。

日本の鉄道の発着時刻の正確さは世界に誇るに足るものだそうだが、それがダイヤルの余裕のなさによるものだとあっては、悲しく正確だと云わなければなるまい。そして、その余裕のなさが旅客貨物の激増によることを思えば、明治初年鉄道を施設するにあたって狭軌にした事が悔まれる。新幹線は広軌を採用する由だがおそきに失したと云わねばなるまい。為政者は、遠い見通しをもたなければならない。

×　×　×

スポットライト

▼「企画部様へお願い、校内文化部対抗の野球リーグ戦を開いていただけませんか」これはある文化部の部員が言っていたことばであるが、それほど最近は対抗野球が盛んなのだ。ところがだ、どこの部の話を聞いても勝った話ばっかり。いったいどこの部が敗けてやってるんだろう？

▼このほど応援団幹部はユニフォームを購入したが、その配色はあまり良くないらしい。ある生徒は「あんくたらシャツなんかあったものでない。もっといいのがあったてねがや」と批評している。ただし「仲々いい色だ」といっている人もいるから念のため。

▼「スポットライト」という単語がよく聞かれる。ところがこのような、はいからなことばになるとどんな場合に使ったらよいのか面くらう人が多いようである。そんな人のために、

SPot＝「点」light＝「明るい」ゆえにSPot Lightとは「明かるい点」という訳である。ちょっと御参考までに！

三角点

「今年の応援団幹部は統一がとれていない」これが応援団幹部に対して生徒諸君がくだした評価である。また応援団幹部は「私たちが真剣にやっても生徒がついてこないし、全般的に応援に対する熱意が生徒諸君には見られない」と今年の生徒を評価している。この二つの意見はどっちも当っている。〃統一のとれていない応援団幹部〃も事実だが〃応援に熱意のない生徒〃も事実だ▼応援練習中、私はある情景を目にした。「先生が来た」といって某応援団幹部がこそこそ逃げだした。当然、下級生はその幹部を指さして笑った。なぜ彼が逃げだしたのか私にはわからない。それ相応の理由があったのだろう。ただ残念に感じた事は、この様な事が生徒が幹部に不審を抱き蔑視する一原因になってしまうことだ。また、応援において幹部の意見相違も幹部蔑視の一原因になっている▼いろいろ応援団幹部の汚点を書いてきたが、私の目的はここで幹部を非難することではない。私が言いたいのは応援団幹部の汚点は汚点として認め全生徒がこれをカバーしていかなければならぬということだ。そうすることが団員である私たち生徒に与えられた当然の義務でなかろうか▼応援団幹部の汚点を批判するのはよい。しかし、批判だけに終止してしまってはいけない。誰かが歌うだろうし「僕が行かなくとも誰かが応援に行くだろう」というような考え方が多くの生徒に深く根ざしている。自分から進んで積極的に応援参加が出来ないものか。

アベ
アベ
文具
文具
北高通り
TEL 53.1611

トケイとメガネ
万年筆
工藤時計店
畠町銀座　TEL 607

三階へ食堂新装開店
明るい売場で楽しいお買物
丸
新銀座
TEL 178(代)

D・P・E　8ミリ
安岡カメラ店
柳町　TEL 1079

ピクニックとレクリエーション
当店を卸利用下さい
大　畠兵食品部
TEL 71.1071

日紡ビニロン
トレーニングパンツ
シタギなら
ぐるっとまわってやっぱり
佐々弘　能代駅前　TEL 116